

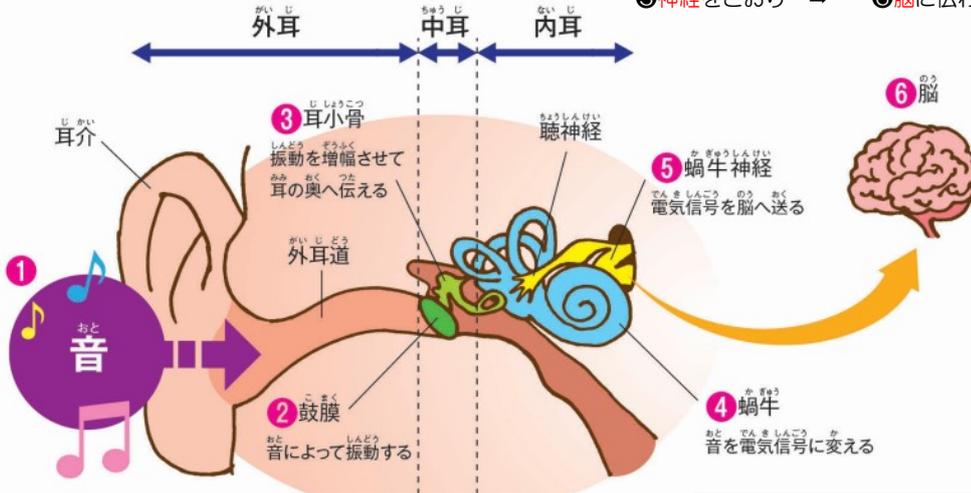
耳で聴く「聴覚」と「聴覚」の不思議

企画展「われら感覚器探検隊！五感の不思議を知ろう」では、人が感じる5つの感覚（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）についてわかりやすく説明しています。今回、「聴覚」について、一部ご紹介します。是非、会場でご覧ください。

「聴く」ためのしくみはどうなっているの？

《聴くしくみ》

空気の振動である音波が、①耳の穴に入ると → ②鼓膜をふるわせ → ③耳小骨に届き → ④蝸牛で音のふるえが電気信号となって → ⑤神経をとおり → ⑥脳に伝わり、音として聞こえる。



ヘッドホン聴時に注意

イヤホンやヘッドホンを長時間つけることで起こってしまう病気で、最近増加しています。

日常では、あまり不便を感じない高い音域（約4,000Hz）例：鈴虫の鳴き声）が聞こえにくくなり、気付かないうちに日常会話も聞こえにくくなってしまいます。

イヤホンで音楽を聴いたり、ゲームをする時は、音量を小さくする、長時間聞かないことを意識し、予防しましょう。

音の高低で聞こえる音と聞こえない音が！？

音は空気の振動で、波形として表します。この音の波が1秒間に振動する回数を「周波数」といい、Hz（ヘルツ）という単位を用いています。この周波数の数字が大きいほど高い音、小さいほど低い音となります。

人が聞きとれる音は20～2万Hzと言われています（下図）。この範囲外は音として感じることはありません。

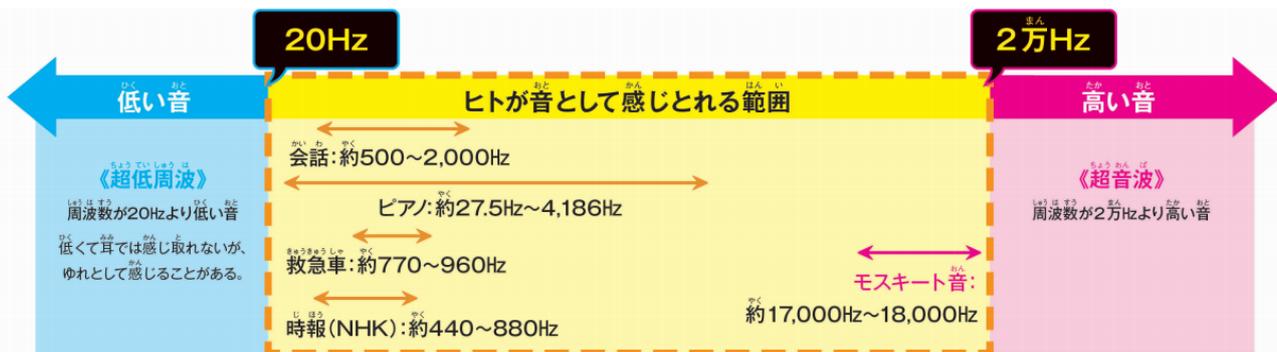
私たちは全ての音が聞こえているわけではないのです。

若者だけが聞こえるモスキート音

モスキート音は非常に高い音（約17,000Hz）で、多くの若者には聞こえますが、年齢を重ねると聞こえにくくなると言われています。

20歳くらいのころは、広い範囲の周波数の音が聞こえますが、40代くらいから、聞き取れる音の範囲が狭くなります。

※会場の「生活音」音あてクイズにモスキート音が収録されています。



毎年9月は24日～30日は結核予防週間

『結核』にご注意を！！

- 結核は、結核にかかっている人の咳やくしゃみに含まれる結核菌を吸い込むことで感染します。
- 感染しても多くの人は発病しないまま一生を過ごしますが、体の免疫力が低下すると発病しやすくなります。
- 結核を発病すると、咳、たん、微熱、だるさなど風邪に似た症状が始まり、適切な治療をしなければ、症状が進み、周囲の人に感染を広げたり、死に至ることもあります。
- 65歳以上の高齢者が患者の約7割を占めており、かつて結核がまん延していた時代に感染した方の、高齢化による免疫力低下に伴う発病と考えられます。

早期発見・早期治療のために

早期に発見できれば、自宅の治療を受けることができます。2週間以上、咳やたんが続く場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

65歳以上の方は、広島市健康づくりセンターや地域を巡回する集団検診で年1回、無料で胸のレントゲン検査を受けることができます。

詳しくは、市のホームページで

結核健診 検索

【お問い合わせ先】広島市健康福祉局健康推進課
Tel (082) 504-2622